「生産空間」に住み続けられる環境づくりを目指して

～　名寄周辺モデル地域の施策パッケージを取りまとめ　～

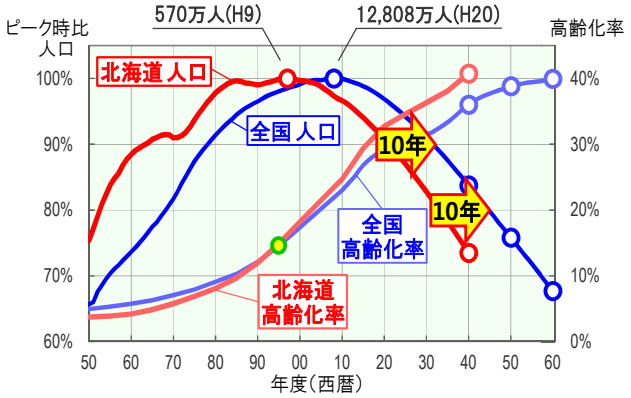
北海道開発局　開発監理部　開発計画課・開発調整課・開発調査課・開発連携推進課

■「生産空間」とは

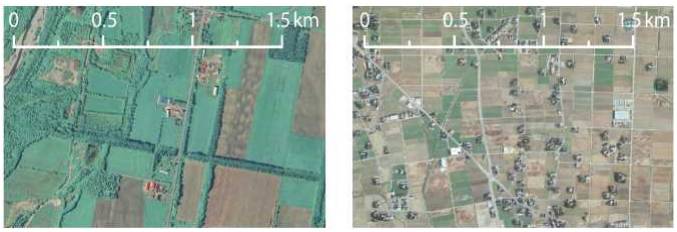
平成 28 年に閣議決定された、今後おおむね 10 年間における北海道開発の展開の方向と施策の内容を示す「北海道総合開発計画」では、北海道の強みである「食」「観光」などを支える農・林・水産業等の「生産」の場を「生産空間」とし、この生産空間を維持・発展させていくとしています。主に地方部に広域に分散する生産空間では、広大な農地の中に住居が点在する散居集落が中心となっており、北海道の地域構造は他の都府県とは大きく異なっています。

また、生産空間は、都市部以上に人口減少や高齢化が急速に進行しており、今後、その維持が困難になるおそれがあります。

生産空間がこれからも地域の発展とわが国全体への貢献を果たすためには、「地方部の市街地」や「圏域中心都市」と都市機能・生活機能を重層的に分担し、交通・情報等のネットワークにより結びつきの強化を図るなど、人々が生産空間に住み続けられる環境づくりが急務です。



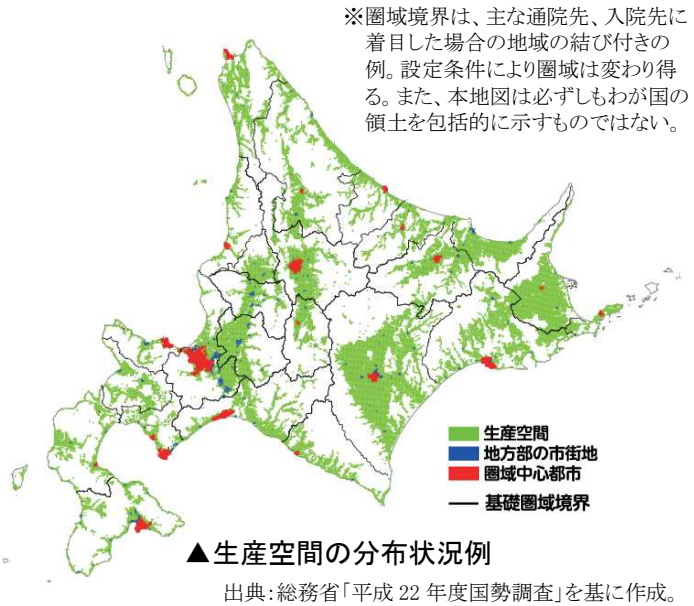
▲人口減少・高齢化率の推移
（全国よりも 10 年先に進展）



北海道の農村の例（上士幌町）　他県の例（富山県砺波市）

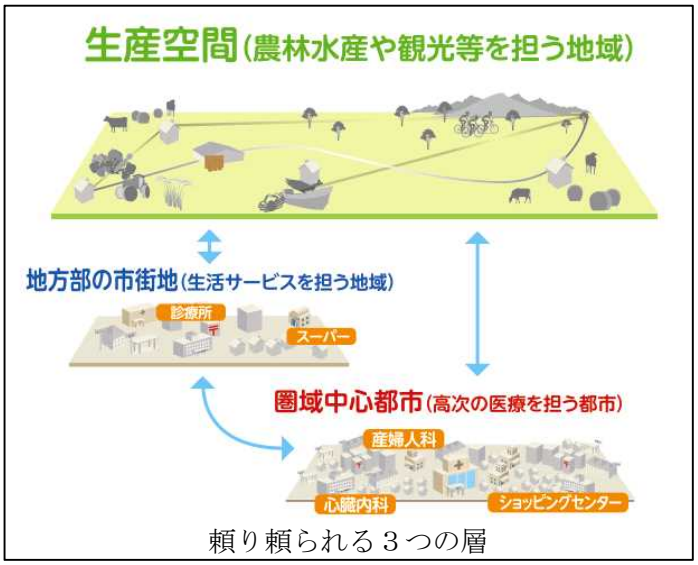
写真：NTT 空間情報（株）

▲散居型の集落形態のイメージ



▲生産空間の分布状況例

出典：総務省「平成 22 年度国勢調査」を基に作成。



▲北海道型地域構造（基礎圏域）

■「生産空間」を支えるための検討会を開催

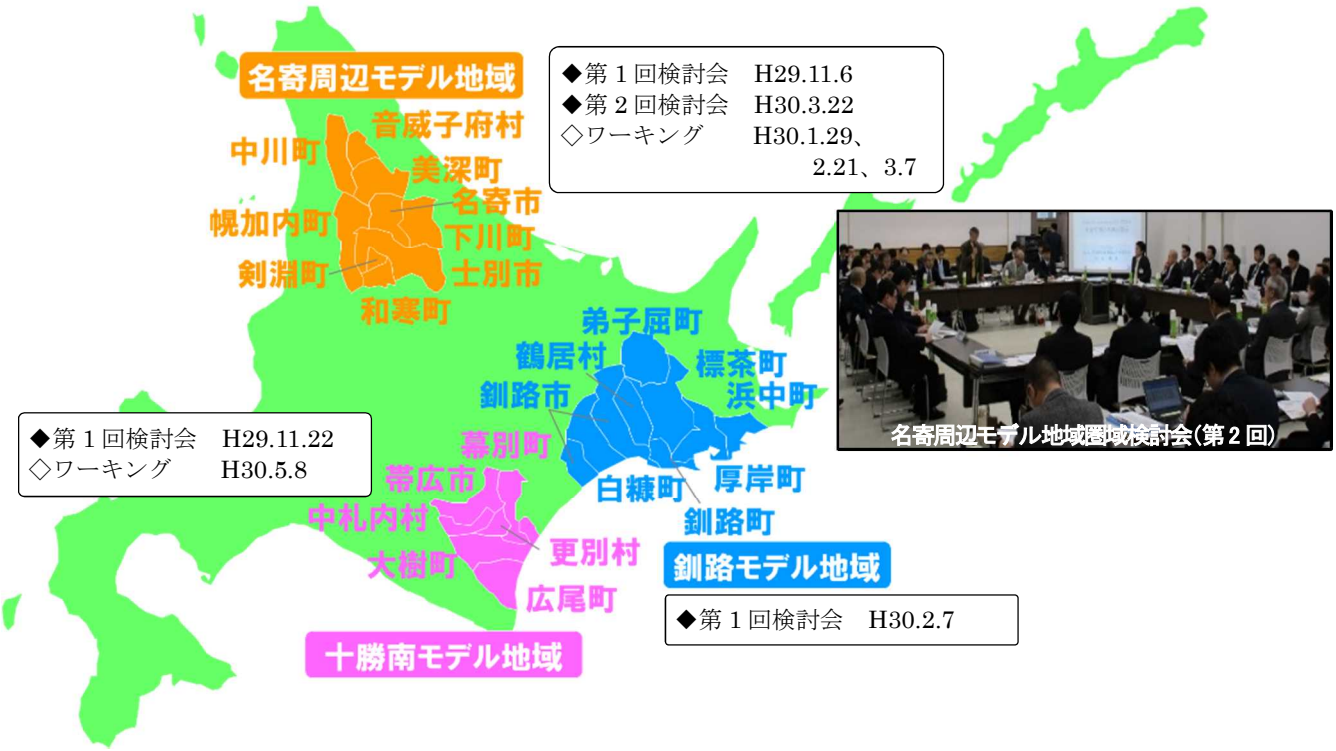
当面の目標である施策パッケージの作成に当たり、モデル的に検討する地域として、産業構造や地理的特性を踏まえ、それぞれ特色を持つ「名寄周辺」「十勝南」「釧路」の 3 圏域を選定しています。

この 3 圏域に、地域の多様な主体（産・官・学・金）で構成される検討会を発足し、「生産空間」に住み続けられる環境づくりを目指して、地域特性、課題・ニーズに対応した各種施策の検討を行っています。

また、各々の施策を着実に進めるため、ワーキングチームを設置し、地域で活躍されている方々の意見も伺いながら、具体的な検討を進めています。

	名寄周辺	十勝南	釧路
	産業構造：稲作その他 地理的特性：内陸（分散型）	産業構造：畑作・酪農（大規模経営） 地理的特性：内陸（集中型）	産業構造：酪農・水産業（港湾・漁港機能を有する） 地理的特性：沿岸（集中型）
【地域構造のイメージ】			
【この圏域の特色】	○ 稲作・畑作のほか、酪農や林業等、多彩な一次産業が見られる。 ○ 圏域内各層間で一定の依存が見られるほか、医療面での圏域とは別の圏域への購買依存があるなど、行動が多様。	○ 主に畑作や酪農などで大規模経営がなされている。 ○ 圏域中心都市に都市機能・生活機能が集積しており医療面、購買面とも圏域中心都市への依存度が高い。	○ 生産空間（漁港）と市街地が隣接しており、圏域内に点在している。 ○ 圏域中心都市に都市機能・生活機能が集積しており医療面、購買面とも圏域中心都市への依存度が高い。

▲モデル的な3圏域における生産空間の特徴



▲3圏域における検討会等の開催状況

■名寄周辺モデル地域の施策パッケージを取りまとめ

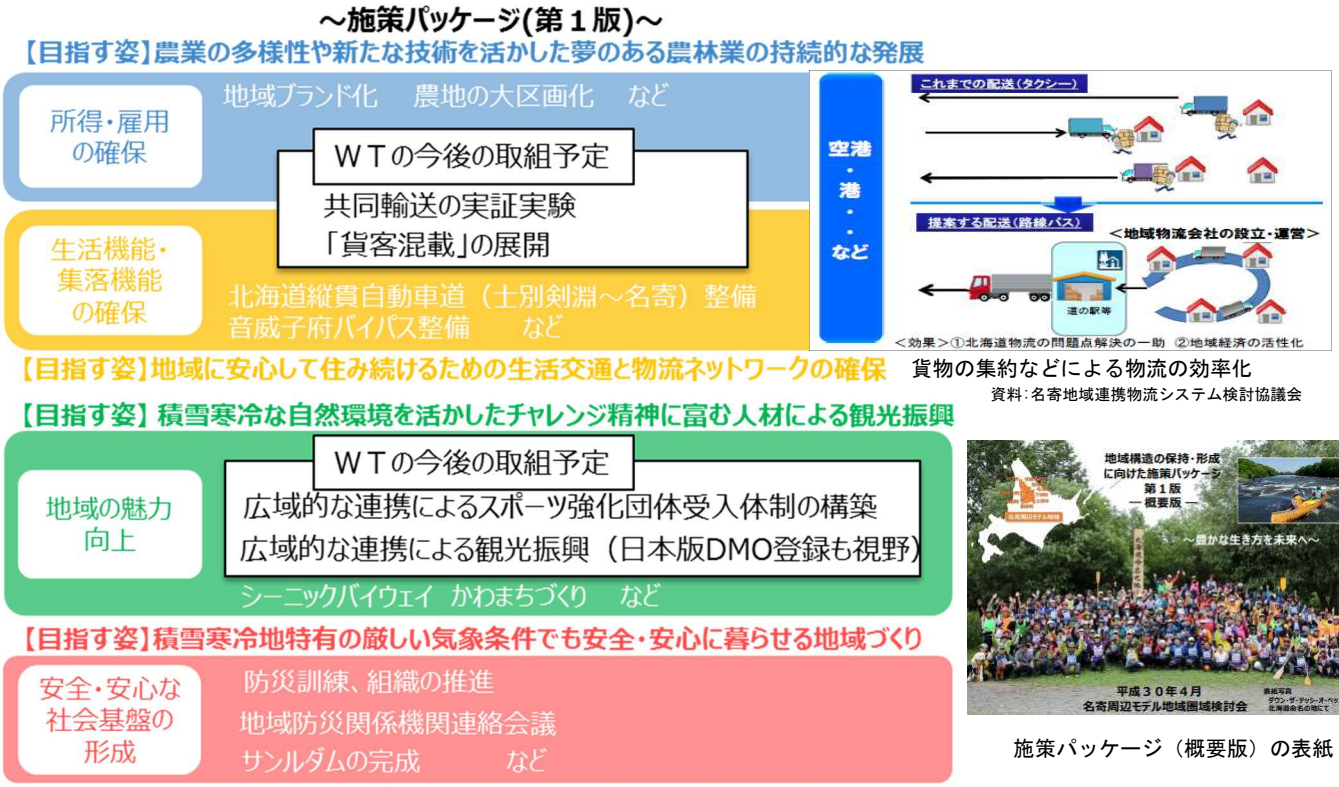
3 圏域の中では、名寄周辺モデル地域での検討が最も先行しており、これまで、検討会を 2 回、ワーキングチームを 3 回開催し、圏域の強みや課題、必要とされる施策の方向性や具体的取組を共有するための施策パッケージ（第 1 版）を取りまとめました。（平成 30 年 4 月）

施策パッケージでは、「豊かな生き方を未来へ」をテーマとし、今後、ワーキングチームによって、「効率的な物流システムの構築」「広域的な連携によるスポーツ強化団体受入体制の構築」「広域的な連携による観光振興」の取組を推進していくこととしています。

今後も引き続き、地域で議論を重ね、新たなアイディアも取り入れながら、地域総力で施策を推進していきます。

※名寄周辺モデル地域の施策パッケージは、以下 URL からご覧いただけます。

→ http://www.hkd.mlit.go.jp/ky/ki/keikaku/splaat0000013gzk.html



施策パッケージ（概要版）の表紙

▲名寄周辺モデル地域の地域みらいデザインシート

【豊かな生き方を未来へ】

このテーマには、この地域の目指す未来の姿として、多種多様な１次産業や魅力ある観光資源などの宝を活かすとともに、「経済優先より生き方優先」「農林業には夢がある」「２０年先に暮らしを楽しむ精神」などといった地域の方々の想いを込めています。

〇効率的な物流システムの構築

名寄周辺モデル地域では、多様な産業が分散していることなどから、物流システムの構築が喫緊の課題であり、貨客混載や貨物の集約など物流の効率化に取り組んでいきます。

〇広域的な連携によるスポーツ強化団体受入体制の構築

圏域内の各地で行われている冬季・夏季スポーツの取組を活かし、スポーツ合宿の誘致などによる交流人口の増加などを推進していきます。

○広域的な連携による観光振興（日本版 DMO の登録も視野）

日本版ＤＭＯの登録も視野に入れ、地域一体となった議論による施策効果の最大化を目指した観光振興を推進していきます。

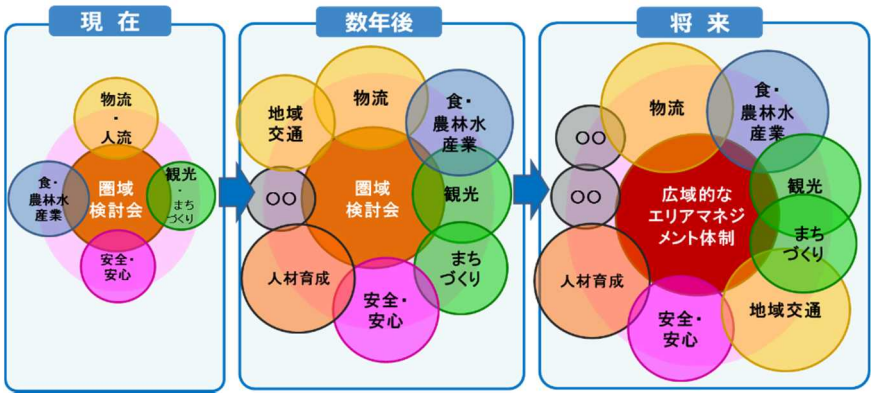
※日本版ＤＭＯとは、地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協同しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人のこと。

■十勝南、釧路の両モデル地域での検討状況等

十勝南、釧路の両モデル地域においては、どちらも第１回目の検討会を開催し、地域の現状と課題などについて議論を行いました。現在、挙げられた課題に対し、まずはどの項目において重点的に取り組んでいくのか等をワーキングチームで議論しています。

平成３０年５月に最近開催された十勝南のワーキングチームでは、若者は十勝に住み続けたいのに就職先が少なく、圏域外へ流出している一方、人手が足りず困っている農家も多くいるという人材のミスマッチの対応や、農村地区における生活交通の確保に必要な施策などについて意見をいただきました。

両モデル地域では、今後もワーキングチームによる議論を重ね、平成 30 年度中には、第 2 回検討会を開催して、名寄周辺モデル地域のような施策パッケージを取りまとめていく予定です。



▲地域における施策推進体制イメージ

施策パッケージの取りまとめ後は、テーマ別のワーキングチームで推進していきます。さらにテーマの分割や複合、新たなテーマの掘り起こしも柔軟に対応していき、行政界を超えた広域的な施策に関し、「ゆるやかな集合体」として総合的に施策をマネジメントできる体制を目指します。

また、今後、３つのモデル地域における取組の成果を踏まえて、他の地域での展開についても検討していきます。

■最後に

急速な人口減少・高齢化の進行に対し、何か一つの施策で抜本的に解消することは困難です。そのため、地域の関係者が知恵を出し合い、各々の施策効果を最大化する視点で行政界を超え連携し、各施策を着実に実行していくことが重要です。

これまでの検討会・ワーキングチームの中でも、圏域の関係者間で、課題を認識・共有し、それぞれの役割が見えてきたのは貴重な機会であったという感想が寄せられています。

北海道開発局と言えばインフラ（ハード）整備の官庁という印象ですが、北海道総合開発計画を推進する立場から、このような地域連携を支援する取組などのソフト施策を推進しており、今後も北海道開発の発展に寄与してまいります。